

去程に島津義久公、天正十四年の冬、諸勢を豊後の地に發向すべきために、まづ休叱薩州豊州の運の程をはかり見よと申付らる。休叱曰、運をはかる迄も御座なく候、豊後兩大將の星は、それがし存知の事なれば、大友宗麟子息義統の星をいのり申べく候、星の奇瑞次第になされよろしからんと申、義久公尤と同せらる。休叱則私宅にかへり、檀上の儀式次第をかざり、秘術をつくしぬ、扱宗麟公は祿存星、義統は破軍星にあたり玉ふ、されば休叱豊後兩大將祿存星破軍星を先として、あたる星毎を祈りしかば、忽然として奇特みゆ、此行にては運の甲は乙となり、利をうしなふ事あらじと、喜悅の眉をひらく。

〔璫囊抄〕五月ニ生ル、子ハ、二親不利也ト云ハ實歟、全無其證、還テ吉例多シ、晉書ニ云、孟嘗君五月ニ生レタリ、福貴無比、略○中 上宮太子癸巳ノ年正月一日甲子ノ日生レタマフ、欽明天皇三十二年也、

〔唐六典十四太常寺〕凡祿命之義六

一曰祿、二曰命、三曰驛馬、四曰納音、五曰湓河、六曰月之宿也、

〔二中歷十三能〕祿命師

上人日延 扶仙 良堪 能算 忠清 慶增

〔唐書百七呂才傳〕博州清平人、略○中 擢累太常博士、帝○太病陰陽家所傳書多謬偽、淺惡世益拘畏、命才

與宿學老師刪落煩訛、掇可用者爲五十三篇、合舊書四十七凡百篇、詔頒天下、才於持議儒而不俚、

以經誼推處、其驗術、諸家共訶短之、又舉世相惑、以禍福終莫悟云、才之言不甚文、要欲救俗失切、時

事俾易曉也、故剏其三篇、略○中 祿命篇曰、漢宋忠賈誼譏司馬季主曰、卜筮者、高天祿命、以悅人心、矯

言禍福、以規人財、王充曰、見骨體知命、祿見命、祿知骨體、此則言祿命尙矣、推索本原、固不其然、積善

之家必有餘慶、豈建祿而後吉乎、積惡之家必有餘殃、豈劫殺而後災乎、皇天無親、嘗與善人、天人之